

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立 ○○小学校

指導者○○ ○○

1, 題材「ともに生きる心ーみんなの○○」 (福祉)

2, 指導にあたって

こんな子どもだから

○ 生活科の学習で、地域のお年寄りから昔遊びを覚えてもらうという経験をしている。また、国語の「手と心で読む」の学習を通して、点字の役割や使われ方などについて知識として知っている。 (題材)
○ 学習プリントなどに自分の考えを書いていると友だちの前で発表することができ、友だちの意見も相手の方を向いてうなづきながら聞いたりすることができはじめています。 (体験・伝え合う活動)
○ グループの友だちとは仲良く活動し、自分の考えを伝えることができる。1学期の社会科の学習では、GTの話を静かに聞いたり、質問したりすることができていた。 (人とのかかわり)

こんな教材で

○GTの話を聞いたり、疑似体験をしたりすることで、バリアやバリアフリーについて調べ、「みんなが生活しやすい城浜のまち」にするために自分たちにできることを考えていく活動を行う。
○アイマスクや車いす、高齢者の体験をし、GTの話を聞くことで、障がいのある人や高齢者のことを考えて行動することの大切さが実感できる。
○自分たちが疑問に思ったことや調べてみたいと思ったことを課題にすることで、調べて分かったことを友だちに伝えたいという意欲をもつことができる。
○調べたことをもとに表現物を使って、保護者に分かりやすく伝えようとすることは、コミュニケーション能力の育成につながる。
○地域のバリア・バリアフリーを調べることで、今までとは違った視点で地域のことを見直すきっかけにすることができる。
○地域に目を向けて考えることで、自分の生活をふり返り、自分の生活を見つめ直すことができる。

こんな手立てを (人とのかかわりは※印)

つ か む	○学習への意欲をもたせるために、全児童にアイマスク、車いす体験をさせる。 ○課題意識を明確にさせるために、体験の感想を書かせ、それをもとに話し合いを行う。 ※GTの話を聞き、二人組で協力してアイマスク、車いす体験をする。
さ ぐ る	○一人一人に意欲的に調べさせるために次のことを行う。 ・自分の課題をもって、学校や団地の周辺、公民館などを調べさせる。 ・インタビューの仕方など調べ方の具体例を示す。 ○一人一人が意欲的に活動できるように、課題別の小グループで調べたり、表現物にまとめたりさせる。 ○発表をよりよくするために話し合いの場やリハーサルを設定する。 ※グループで協力して調べる。 ※公民館や団地の人にインタビューする。
ひ ろ げ る	○学習の達成感を味わわせるために調べたことや自分の考えを発表する場を設定する。 ※自分たちが調べて分かったことや考えたことを保護者に発表する。

3, 目標

○興味・関心・意欲（価値的・態度的側面）

・バリアやバリアフリーについて、意欲的に調べたり、発表したりすることができる。

○伝え合う活動（技能的側面）

・自分の考えと友だちの考えに同じところはないか、気を付けながら話し合うことができる。

○自分の生き方（価値的・態度的側面）

・身体に障がいのある人や高齢者の生活や願いを知ることができる。

・みんなが住みよい町にしたいという気持ちをもつことができる。

○人とのかかわり（技能的側面）

・友だちと協力して調べたり、発表したりする中でお互いのよさを感じ取ることができる。

4, 学習計画（30時間）

自己存在感を持たせる支援 **自己** 共感的人間関係を育成する支援 **共感** 自己選択・決定の場の工夫 **選決**

段階	時間	学習活動	人とのかかわり	指導・支援 ☆は個別の支援	評価
つかかむ	1	<p>1, 自分や自分の身の回りを考え、暮らしの中に不自由さを感じる人がいることに気付く。</p> <p>(1) 自分が知っていることを出し合う。</p> <p>・重い荷物を持って階段を上がっている高齢者がいたよ。</p> <p>・松葉杖をついて歩くのが大変そうだったよ。</p> <p>・言葉が通じなくて大変だったよ。</p> <p>(2) 教科書や資料で学習したことを想起する。</p> <p>道徳「せきがあいているのに」「車いすの青春」</p> <p>国語「手と心で読む」</p> <p>・私たちの書く字の代わりになるのが点字なんだね。</p> <p>・障がいがあっても強い心で生きている人がいるんだね。</p>	○友だちと今までしてきた学習を想起し、話し合う。	<p>○学習課題を明確にもたせるために、今までの経験から知っていることを出し合い、体験活動へとつなぐ。</p> <p>自己</p> <p>○障がいがあることの大変さだけではなく、前向きな生き方に気付かせるために、筆者や主人公の心情を感じ取らせる。 共感</p> <p>○子どもたちの意見が出やすいように学習の足跡や写真を掲示しておく。</p> <p>共感</p>	○自分たちが知っていることを確認できる。 (知識的側面)
	2	<p>2, 身体に障がいのある人を GT として招き、生活の中のバリアを疑似体験する。</p> <p>(1) 疑似体験を通してバリアのある生活を体験する。</p> <p>○アイマスク体験</p> <p>○車いす体験</p> <p>○聴覚障がい体験</p> <p>○高齢者疑似体験</p> <p>(2) GT の話を聞く。</p>	<p>○友だちと協力して疑似体験をする。</p> <p>○GT の話を最後までしっかり聞く。</p> <p>○GT の話を聞き</p>	<p>○バリアのある生活の不自由さと、バリアフリーの意味と大切さについて学べるようにGTと打ち合わせをしておく。</p> <p>自己・共感</p> <p>○一人一人が意欲をもって活動できる</p>	○障がいのある人の気持ちになって、疑似体験をしている。 (価値的・態度的側面)

	<p>○町で生活する中で困っていることを中心に話をしてもらう。</p>	<p>分からないことを質問する。</p>	<p>ように保護者にも協力してもらう。</p>	
2	<p>3, 校区探検をする。 ○○校区のバリア・バリアフリーを探す。</p>		<p>自己 ☆活動に入れない子には声をかける。 ○あらかじめ視点を決めておく。選決</p>	
1	<p>4, 福祉体験や校区探検の感想をもとに学習課題をつくり、活動の計画を立てる。 (1) 一人一人の課題をもたせ、追究内容を考える。</p>		<p>○体験の感想と、自分が興味をもった事柄を書かせ、それをもとに話し合わせる。選決 ☆課題が決まらない子には、体験活動をふり返らせる。 ○自分たちの住んでいる地域に視点がいくように校区探検の写真を掲示しておく。自己</p>	<p>○自分が興味をもったことをプリントに書く。 (価値的・態度的側面)</p>
1 本 時	<p>(2) 課題別グループで追究内容について話し合い、学習課題をつくる。</p>	<p>○グループの友だちと協力して話し合う。</p>		<p>○課題解決のための学習計画を立てることができる。</p>
	<p>学習課題 ○○にあるバリアやバリアフリーを見つけ、みんなが住みよい町にするにはどうしたらいいか考えよう。 ○車いすの人から見て ○高齢者から見て ○目が不自由な人から見て ○耳が不自由な人から見て それぞれのバリアやバリアフリー</p>			<p>(技能的側面)</p>
1	<p>(3) 自分が調べる方法を確認する。</p>		<p>○課題を明確にもたせるため、どこで何を調べてくるかプリントにまとめさせる。選決</p>	

さ ぐ る	6	<p>5, 課題を解決するための追究活動を行う。</p> <p>○それぞれの課題ごとに調べバリアフリーを見つけたり、インタビューしたりする。</p> <p>○それぞれの課題ごとに体験を行う。</p> <p>○見学, インタビュー, デジカメによる撮影など工夫して取材する。</p>	○グループの友だちと協力して調べる。	○インタビューや写真活用の仕方を提示し選択できるようにする。 選決	○見学に行ったり, インタビューを行ったりして, 情報を集めることができる。 (技能的側面)
	1	<p>6, 調べたことをもとに表現物にまとめる。</p> <p>(1) まとめかたを話し合う。</p>		○多様な表現方法やまとめ方を提示して選択できるようにする。 選決	
	6	<p>(2) 同じ課題のグループで話し合い, 表現物にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすの人から見て ・高齢者から見て ・目が不自由な人から見て ・耳が不自由な人から見て </div> <p>○**から見た, 城浜のバリア・バリアフリー</p>	○グループの友だちと協力してまとめる。	☆グループの中に入れない子には声をかける。	○グループで協力して表現物をつくる話し合いができる。 (技能的側面)
	1	<p>7, まとめた内容を確認し, 中間発表会をする。</p> <p>(1) 中間発表会を行う。</p> <p>車いすの人</p> <p>Aグループ ←→ Bグループ</p> <p>高齢者</p> <p>Aグループ ←→ Bグループ</p> <p>目が不自由な人</p> <p>Aグループ ←→ Bグループ</p> <p>耳が不自由な人</p> <p>Aグループ ←→ Bグループ</p>	○グループの友だちの意見を取り入れながら協力して話し合う。	○自分が調べたことと比べて考えやすいように同じ課題のグループに発表させる。 自己	○友だちの発表のよいところを確認させるために, 前時の学習プリントを配布し, 自分の発表に取り入れるように声かけをする。 共感
	1	<p>(2) 中間発表会で出た意見をもとに, 表現物を見直す。</p>	○グループの友だ	○友だちの発表のよ	

		<p>ちと協力して表現物を見直す。</p> <p>○他のグループの発表を最後まで聞く。</p>	<p>さに気付くように声かけをする。</p> <p>共感</p> <p>☆発表に自信がもてない子には発表メモを用意させる。</p>	<p>いる。</p> <p>(技能的側面)</p>	
ひ ろ げ る	2	<p>7, 発表会のリハーサルをする。</p> <p>・ Aグループ→Bグループ</p> <p>・ Bグループ→Aグループ</p>			
	2	<p>8, 発表会を行う。</p>	<p>○保護者に分かりやすく伝える。</p>	<p>○自分や友だちの発表のよいところを見つけて感想を書かせる。</p> <p>共感</p> <p>☆発表に自信がもてない子には, 発表メモを見るように声をかける。</p>	<p>○友だちの発表のよいところを考えながら聞いている。</p> <p>(価値的・態度的側面)</p>
	2	<p>9, 今までの学習をふり返り「自分たちにできること」を考える。</p> <p>○みんなが生活しやすい町づくりのために, 「自分たちにできること」について考え取り組む。</p>	<p>○自分たちにできることを, 具体的に考える。</p>	<p>○学習課題をふり返らせ, 「自分たちにできること」を課題とつないで考えさせる。</p> <p>選決</p> <p>☆考えが思いつかない子には, 自分が作った表現物やこれまでの学習の掲示物を見るように言葉かけをする。</p>	<p>○課題に向けて「自分たちにできること」を考えることができる</p> <p>(技能的側面)</p>
1	<p>10, G Tに手紙を書いて, 学習して学んだことを報告する。</p>	<p>○G Tに手紙を書く。</p>	<p>○学習をふり返りながらお礼や今後の考えを手紙に書かせる。</p> <p>自己</p> <p>☆手紙が書けない子がいた時には, 数名の子に書いた手紙の文章を発表させそれを聞かせる。</p>	<p>○自分たちがこれからどうしていくかを書くことができる。</p> <p>(技能的側面)</p>	

5, 本時 (7/30) 10月 日 () 第 校時 場所: 3階多目的ホール

6, 本時について

目標

- 人とのかかわり (技能的側面)
グループの友だちと協力しながら話し合い, 単元全体の学習課題をつくることができる。
- 自分の生き方 (価値的・態度的側面)
自分の考えと友だちの考えを比べ, 自分や友だちのよさに気付くことができる。
- 伝え合う活動 (技能的側面)
グループの友だちと同じところはないか考えながら話し合うことができる。

前時までに

- アイマスクや車いすの福祉体験をしたり, 体の不自由な方に話を聞いたりして, バリアやバリアフリーに関心をもっている。
- 体験活動をもとに一人一人が自分で調べたいことを考えている。そのことを友だちに話してみんなで調べていきたいという意欲をもっている。

本時の手だて

- 追究課題が明確になるように, 場の設定では同じ課題でグループをつくる。また, 自分の考えをふせんに書かせ, 分類させる。
- グループで話し合ったことをまとめやすくするために, 話し合いの手順と, 自分たちの意見を書いたふせんを貼る台紙を用意しておく。
- 学習課題をつくるために, それぞれの課題の共通部分に着目するように声かけを行う。

7, 準備

- 教師・・・学習の流れ, 話し合いの手引き
- 児童・・・学習プリント, ふせん, 台紙

8, 展開 (7/30)

自己存在感を持たせる支援 自己 共感的人間関係を育成する支援 共感 自己選択・決定の場 選決

配時	学習活動	人とのかかわり	指導と支援 ☆は個別の支援	評価
2分	1, 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">何を調べたいかを発表し合い, これからの学習課題をつくろう。</div>			
3分	2, 学習の流れと話し合うことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・調べたいわけ ・調べること (何を)</div>		○学習の流れが分かるように掲示しておく。 選決	
18分	3, 課題別グループに分かれて話し合う。 ○車いすの人から見て	○課題別グループで協力	○課題別グループの話し合いが進むよ	○話し合いの中で友だ

- 高齢者から見て
- 目が不自由な人から見て
- 耳が不自由な人から見て

(1) 一人ずつ何を調べたいかを理由をふくめて発表する。

- ・校区探検で、点字ブロックを見つけたので、目の不自由な人から見たバリアフリーを調べたいです。
- ・同じ棟のおばあちゃんが、重そうな荷物を持って階段をのぼっていたので、自分にできることを見つけないです。
- ・車いす体験をして段差を乗り越えるのが大変だったから、車いすについて調べてみたいです。
- ・聴覚障がい体験をして、耳が不自由な人の苦労や工夫について知りたいです。

(2) 出てきた意見を場所・場面・改善への願いなど観点ごとにまとめる。

17分

4, 全体で交流し、学習課題をつくる。

(1) 課題別グループで出た意見を全体に発表する。

(2) 発表したことをもとに、今後の学習の課題を考える。

- ・〇〇の校区の中で、目の不自由な人はどこで不便を感じているか調べたいです。
- ・〇〇に住んでいる高齢者は、どんなところで困っているか知りたいです。
- ・〇〇にいる耳の不自由な人は手話以外にどんな方法で人に気持ちや考えを伝えるのか調べたいです。
- ・〇〇団地のエレベーターにあった点字は何と書いてあるか調べ

して話し合う。

○友だちの考えと同じところはないか考えながら話し合う。

○友だちの発表のよいところを見つけてながら聞き合う。

うに支援する。 共感

○ふせんに発表する内容を書き込ませておく。 自己

☆話し合いに参加できにくい子には、自分のプリントを見るように声をかける。

○自分のよさに気付かせるために、承認・賞賛の言葉かけを行う。 自己

○同じ内容のふせんは重ねさせ、追究する内容をはっきりさせておく。

選決

○発表の内容をもとにして、共通点を見つけやすくするために板書を工夫する。 自己

ちのいいところに気をつけながら聞いている。
(価値的・態度的側面)

5分	<p>たいです。</p> <p>学習課題 ○○にあるバリアやバリアフリーを見つけ、みんなが住みよい町にするにはどうしたらいいか考えよう。</p>		<p>○プリントを準備し学習のふり返りをさせる。 選決</p>
----	---	--	--

9, 学習形態

